

桜のはなし

1) 桜の開花宣言が、南の鹿児島より北にある東京が早いのは何故なのか？

先日、NHKのニュースでも放送されていましたし、意外と知られた事実のようですが、敢えて書いてみます。春、桜は花を咲かせ、散り、その後は青葉を茂らせます。そして、秋、葉は枯れて落ちていきます。その時から花の蕾は来年の春に開花するための準備を始めます。

その準備には、**一定以下の温度に、ある一定期間曝される**ことが必要になります。一定の寒気にさらされた桜の蕾は春の温かさに刺激されて開花します。これが桜の開花の簡単なメカニズムになります。

この一定の寒さ以下になる期間の多さは、温暖な鹿児島より緯度の高い東京の方が多いのは理屈通りです。鹿児島では一定の寒さになる期間が東京よりも短いため、なかなか開花しようとしません。

さらに、南にある種子島の桜はちらほら咲きで満開にならないそうですし、沖縄は桜も開花しないそうです（見たことがないので真実は分かりませんが）。地球温暖化で、近い将来、本州でも満開の桜の花見ができなくなるかもしれません。

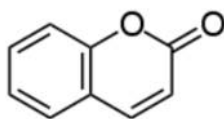
2) 桜の木の下では、雑草が育ちにくいのは何故だろう？

これも朝のテレビのクイズで出されていたのですが、桜の葉には雑草の生育を抑制する成分が含まれていて、春、花を咲かせ、散り、その後は青葉を茂らせ、そして、秋、葉は枯れて落ちて行きます。落ちて行った先の地面で葉の中にあつた雑草生育の抑制成分が地面に浸透して行きます。かくして、雑草は育ちにくくなるというわけです。

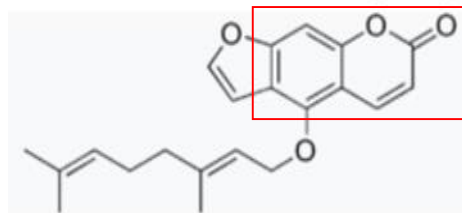
ちなみに、その成分とは**クマリン**。どこかで聞いた名前ですね、**クマリン系抗凝固薬ワルファリン**の名前で知られるクマリンです。かんきつ系など広く植物に含まれている成分ですが、桜葉の場合は特有の香りの素になります。

このクマリンには抗酸化作用や抗菌作用、抗凝固作用などがあるので、ある種の雑草には毒になるようです。桜葉として食品素剤として販売されているようですが、人体には通常量では問題はなさそうです。グレープフルーツジュースに含まれるCYP3A4を阻害することで有名な**フラノクマリン系ベルガモッチン**もクマリンの仲間です。そして、中でも血液凝固阻止作用の強いのが**ワルファリン**になります。構造の違いは以下のようになります（赤く囲った部分がクマリン部分）。

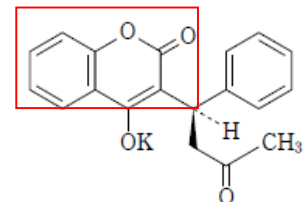
【クマリン】



【フラノクマリン系ベルガモッチン】



【ワルファリン】



3) 桜の樹皮の薬としての効果は

漢方薬の生薬に**桜皮**(オウヒ)があります。バラ科ヤマザクラの樹皮で咳を止める作用、湿疹や蕁麻疹を治す作用があり、漢方薬では**十味敗毒湯**に含まれる生薬成分になります。

本ニュース112号では桜皮を含む十味敗毒湯エキスには**難治性にきび**の改善作用があり、桜皮の代用で樺櫨を利用した製品にはその作用がないという話題を取り上げました。そして樺櫨を利用しているのは大手の1社のみだったという話でした。詳細は当HPのバックナンバーをご覧ください。(終わり)